



ことばを育む

～STブログより～

島田療育センター リハビリテーション部 言語聴覚療法科



はじめに

家族を守るお父さん、お母さんへ

新型コロナウイルスという非日常の中での子育て、本当に大変なことと思います。

休園や休校、外出自粛、また感染への心配など、いつもと違う状況に、
大人だけでなくお子さんも不安やストレスを感じているのではないのでしょうか。

島田療育センターでも、指導時間を短縮するなど感染対策を第一に指導を行なっています。
来院もままならないような大変なこの時期。

少しでもお子さんの育ちを広げるヒントになればと、リーフレットを作成しました。

大変なときですが、お子さんの育ちをじっくりとを感じるよいチャンスでもあります。
少しずつ、がんばりすぎずに、できることから始めていきましょう。

最後に。

不安が大きくなりすぎたときには、一人で抱え込まずに誰かに話してみてください。

自分の気持ちを大切にすることが、自分や家族を守ることにつながります。

私たちがよければ、いつでもご連絡ください。

島田療育センター 言語聴覚療法科 スタッフ一同



ことばとは？

「ことば」とはどんなものでしょうか。
お子さんの「ことば」を育てていくために、「ことば」について知ることが大切です。

①発語

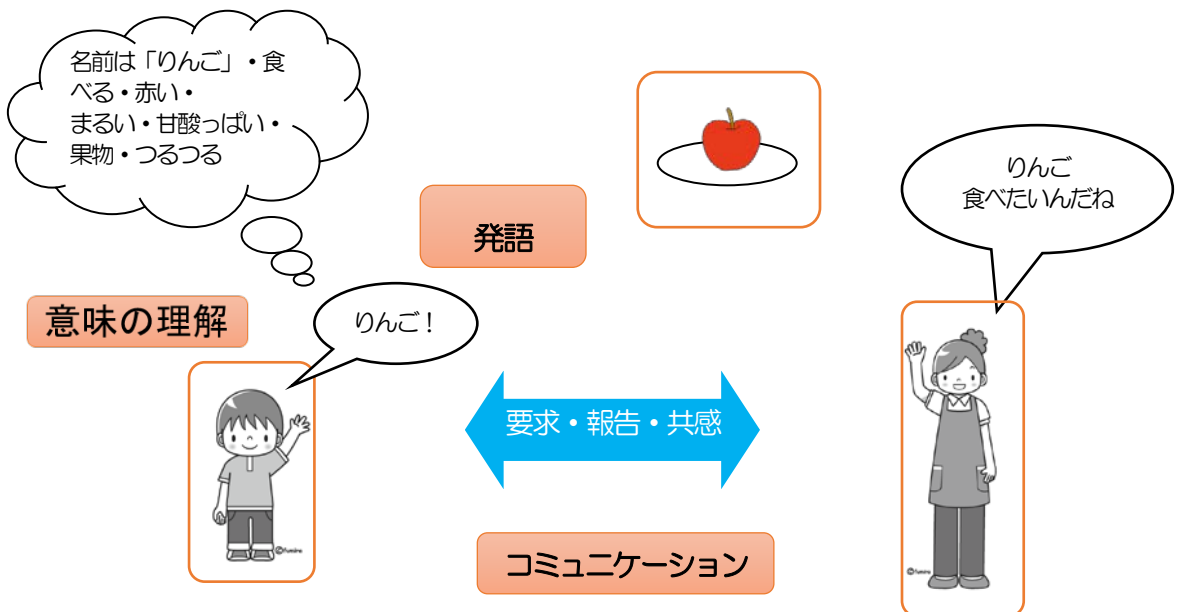
「りんご」と発声すること。成長して舌の作りが整い、
声を出す技術を身に付けると発話出来るようになる。

②意味の理解

「りんご」とは何かを理解すること。生活の中でりんごと接すること
で意味が分かるようになる。「これは赤くて甘酸っぱい果物で名前は
りんごだ」ということが分かっていることが必要。

③コミュニケーション

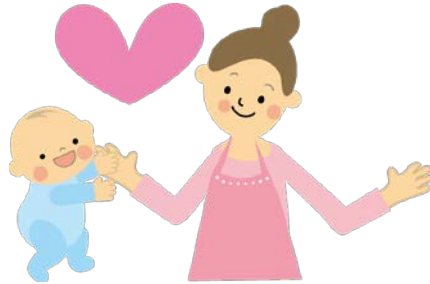
「りんご」ということばを使って、周りの人とやり取りすること。
相手に伝えたいという気持ちのこと。



ことばを育む関わり

まねをしよう

お子さんの行動や発声の真似をすることで、反応してくれて楽しい！嬉しい！もっと行動（発声）してみよう！というコミュニケーションの意欲につながります。



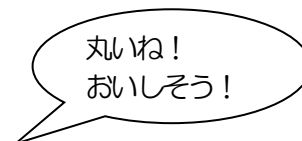
代弁しよう

まだ上手く話せないお子さんは、思っていることをことばにできません。大人がお子さんの行動や気持ちを代弁してあげることで、「この人分かってくれてるな」と安心できたり、伝え方を知ることできます。
例) 積み木を積んで笑う→「上手にできたね！嬉しいね！」と声掛け



特徴を伝えよう

ことばを伝える際に、一緒に特徴も伝えてあげましょう。名前を知るだけでなく、ことばの概念も広げることができます。
例) 「りんご」→「丸いね～！赤くて美味しいね！」



ジェスチャーを使おう

ことばと同時にジェスチャーを活用することで、ことばの理解や表現の手がかりとなります。話し手への注目も促すことができます。

例)「帽子を被ろうね」と言いながら被る動作をして見せる



動きや様子をことばにしよう

動詞や形容詞を抬げるためには、実際に経験している場面での声掛けが重要です。

例) 手洗い場面で「洗ってるね、ゴシゴシだね」、「きれいになったね、ピカピカだね」と声掛け



絵本を読もう

はじめは生活の中で経験している内容（食事、入浴など）や簡単なことばが繰り返される絵本が分かりやすいです。文章を読むだけでなく、見て欲しい絵を指さしたり、身振りも取り入れてみると興味を持ってくれると思います。絵本の内容を遊びの中で再現して見せるのも楽しいでしょう。

例)「ノンタン」シリーズ キヨノ サチコ 偕成社
「だるまさんが」 かがくい ひろし ブロンズ新社



発音について

大人が手本を見せよう

「ばなな」を「なな」と言ったり、「さかな」を「たかな」と誤った発音をすることがあります。お子さんがこのような発音をした時は、誤りを指摘するのではなく、正しい発音をさりげなく伝えてあげましょう。大人が手本となり、ゆっくり、はっきり、分かりやすく返してあげることが大切です。

×「違うでしょ？さかなでしょ。さ・か・な。はい、言ってみて」

○「そうね、さかなね。きれいなさかなだね」

口や舌の動きが大切

正しい発音のためには口や舌などの動きが密接に関わっています。したがって、口や舌の動かし方を意識できるような関わりが正しい発音への近道になります。

①口の体操をしよう

- ・頬を左右交互に膨らめる、唇の周りを舌でゆっくりとなめると等、口や舌を意識的に動かしましょう。
- ・大人が手本を見せたり、鏡を見ながら一緒にやってみましょう。

②色々な強さ、速さの息を吹こう

- ・「シャボン玉」や「笛」でゆっくり・やさしく
- ・「ラッパ」や「風車」で早く・強く

③口の機能に合った食べ物を食べよう

- ・何気ない普段のお食事ですが、実は口や舌を動かす良い練習の場となっています。
- ・お子さんの口の機能に合った軟らかさから少しずつ練習をしていきましょう。



音を意識した遊び

お子さんが4・5歳になると「りんご」という語は「り」と「ん」と「ご」の音から構成され、最初は「り」、真ん中は「ん」、最後は「ご」であることが分かるようになります。この力が育つことで、正しい発音や文字の習得にもつながります。ここでは、ご家庭でもできる、音を意識した遊びをいくつかご紹介します。

音韻すごろく

サイコロの数字の面を絵に変えたものを使用します。出た絵の名前を声に出しながら、音の数だけコマを進めます。



ことば集め

「あ」から始まることばを探してみる遊びです。スムーズにできるようになったら、「あ」で終わることばにすると難易度が上がります。

しりとり遊び

なかなかことばを想起できない場合は、絵カードをしりとり順番に並べることから始めると良いでしょう。



数を意識した遊び

容器に1個ずつ物を入れてもらいましょう

1つのお皿に1個ずつ物を置いてもらいましょう。お食事の盛り付けを手伝ってもらっても良いかもしれません。

声に出して数えよう

まずは1から3まで、次は1から5までと少しずつ長くして数えてみましょう。お風呂に入ったり、お散歩の途中など楽しい雰囲気の中でお子さんと一緒に声に出して数えよう。

指を当てて数えよう

実際の物を指を当てて、声を出して数えてみましょう。自分の玩具でも絵本のキャラクターでも何でもいいです。

同じ数にしよう

お母さんの持っている数と同じ数にしてみましょう。例えば、お母さんのお皿にトマトを2個のせたものを見せて、お子さんに同じ数のトマトを自分のお皿にのせてもらいます。

言った数を取ってもらおう

「2個ちょうだい」と言って物を取ってもらいましょう。難しかったら、大人が手本で2個取って見せてあげます。3個、4個と少しずつ数を増やしていきましょう。



さいごに

ご家庭でできる関わりや遊びについて、いくつかご紹介させていただきました。ぜひ、ご家庭で楽しい雰囲気の中で取り入れてみてください。

詳しい内容は島田療育センターのホームページのブログ（ぽっけ）でも掲載しております。今後も、ご家庭で実践できる内容を随時、更新していきます。参考にしてください。

2020年5月

島田療育センター言語聴覚療法科作成

<参考文献>

- 「1.2.3 歳ことばの遅い子 ことばを育てる暮らしのヒント」 中川信子著 ぶどう社
- よくわかる言語発達 岩立志津夫 小椋たみ子編 ミネルヴァ書房
- 「INREAL 初級ワークショップ 2008 年 11 月」資料 日本 INREAL 研究会
- 言語聴覚士のための言語発達障害学 石田宏代 大石敬子編 医歯薬出版
- 島田療育センター ブログ 「ぽっけ」

島田療育センター ブログ ぽっけ (STことばのブログ)



お問い合わせはこちらへ

島田療育センター ST科

TEL : 042 (374) 2612 (直)

受付時間 : 9時~5時45分

お気軽にご相談ください。

